

ニューズレター 2012 年度第 2 号

日本音楽表現学会 2012 年 11 月 30 日発行

目 次

【巻頭言】 研究雑感	小畑 郁男	2
【随 筆】 ステージでの「あがり」対処法 紹介	新山 真弓	3
新入会員紹介		4
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		4
会員による新刊		6
設立 10 周年記念新事業 「研究サロン」の現状報告と参加のお誘い		7
事務局からのお知らせとお願い		8
各種書式		9
日本音楽表現学会第 11 回（イーハトーヴ）大会のご案内		10
2012 年度役員一覧・編集後記		10

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒 520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

研究 雑 感

小畑 郁男（作曲・音楽表現理論／会計担当理事）

普通の音楽にはあまりありそうもない和音を幾つか作り、その中から取り出したすべてのペアについて「どちらの構成音が相対的に明瞭（クリア）に聞こえるか」という判断を被験者に求め、統計処理をする。そして、その結果を用い仮説を証明していくという手順の論文を、私は以前に書いたことがあります。

「自分自身の中に、なにか判断の基準があったか」という、実験の直後にとったアンケートの設問に対する回答の中に、「短2度は不協和だから」というものがありました。私はその回答を、「濁りが大きければ和音の構成音は明瞭に聞こえないはずだ。不協和な和音は濁りが大きい。短2度は不協和音程であり、短2度を含む和音は不協和な和音であるので、短2度が含まれているかどうかを判断の拠り所とした」というように解釈しました。提示された和音が、日頃聞き慣れているような音高の組み合わせではなかったにもかかわらず、その被験者は、求められた「明瞭に聞こえるかどうか」という基準ではなく、日頃慣れ親しんでいる基準によってカテゴリーを作り、そのカテゴリーに仕分けすることによって判断を行ったと、私には思われました。

何らかの形で文化が絡む問題については、「人は



物事を自分が属する文化に引き寄せ、その文脈に沿って解釈し、判断してしまう」という、今思えばあたりまえの事実を、この回答は私に教えてくれたように思います。

上記の回答を見たとき、この

ような心理実験からは、私が求めようとしているような種類の音楽表現に関する問題—音楽的感性に関する何か普遍的な法則のようなもの—についての答えを得ることはできないだろうと直感し、その後、音楽表現研究の新たな方法を考えていくことになりました。

このような経験を経て私は、「音楽表現に関する記述に共感を持つためには、読み手はすでにその内容を体験的に理解している必要がある」と考えるようになりました。「分かるためには、すでに分かっているから」というパラドックスを抱えながら、音楽表現研究は行われているわけです。例えば音楽表現について論文を書くという行為を、私は「我々が共有する未だ名を持たぬ概念に対し命名すること」、「既知のカテゴリーでは周辺にある要素を関心の中心とする、新たなカテゴリーの創設を行う」こと、「無意識のうちに捉えている音楽表現を意識化する」こと…などのように考えています。

これまで述べてきたように、論文などによるコミュニケーションは、共有する音楽体験や音楽的価値観に基づく、暗黙の了解事項に多くのものを負っていますから、音楽表現研究の豊かさは、体験や価値観の領域拡張への指向とともにあるといってもいいでしょう。論文集『音楽表現学のフィールド』の第1部のタイトルが「音楽における異文化受容」であることは、まさにそのことを象徴しているように私には思えました。そして、第10回大会から始まった「サロン」もまた、そのような領域拡張の試みに違いありません。

「見えるもの—例えば、楽譜—」「見えざるもの—例えば、演奏習慣やそれを支える文化一般—」音楽表現は様々な背景を持って行われます。「見えないもの」「見えにくいもの」を「ないもの」にしてしまわないように注意しながら、これからも研究を続けていきたいと考えています。

ステージでの「あがり」対処法 紹介

新山 真弓（ソルフェージュ）

皆様は、ステージで緊張し過ぎて頭が真っ白になったことはありませんか？

私たちは幼少期から其々実技のレッスンを受けてきましたが、技術的・音楽的な指導はあっても、具体的なステージでの「あがり」の対処法について教授されなかった方のほうが多いのではないのでしょうか？

この度、現代ギター社の「現代ギター」10月号で、ステージでの「あがり」克服の特集が生まれ、6ページにわたり解説させていただきました。掲載内容は、緊張とあがりの違いやあがりの身体的・心理的反応、あがりが起こる要因等、そして、あがりの対処法を提案しました。

私自身もどちらかと言えば緊張するほうで、何か根拠のある方法はないだろうかと模索してきました。たどり着いたのが、スポーツでの「あがり」対処法において常識となっている「リラクセーション技法」でした。

ステージでの「リラクセーション技法」の効果として、本番の緊張感がほど良く軽減され、演奏に必要な適度な緊張感が保持され、しかも不測の事態にも対処できます。その中でも「10秒呼吸法」は、専門の指導者の訓練を必要とせず、その場でのリラックス効果を得ることができます。しかも、簡便で害もありません。この技法を、本学の音楽専修の学生のピアノ実技試験に応用し、不安の軽減や緊張の緩和により「あがり」を抑制させる効果の有効性や学習効果に及ぼす影響を検討してみ

ました。その結果、演奏に必要な適度な緊張感が保持され、しかも不測の事態にも対応できました。「あがり」の中でもステージでの「あがり」の度合いは高く、演奏は演劇の5倍以上で、とくに、ソロ演奏がもっとも高いと言われています。さらに、音楽のジャンルの特性を考えますと、即興性が無く、一音違わず作曲者が作曲したとおりに演奏しなければならないクラシックのソリストは、最大に「あがる」可能性を秘めています。

しかし、「あがる」ことは演奏者にとって決して悪いことではありません。「適度な緊張」を保つことは、実力を発揮するために必要です。むしろ緊張感を強く感じる演奏者のほうが、成功への執着や責任感の強い人だと言われています。また、別の角度から申しますと、緊張することは演奏者にとって、ある意味研ぎ澄まされた感覚です。緊張感が低いことは、かえって音に対する感覚まで鈍ると言えるかもしれません。出番前の極度の緊張感を乗り越えることは、真摯に演奏に向かえ、真剣な演奏に繋がるきっかけになると思われま

す。実践してきた私の実感は、日常において何が起こっても動じない自身の心の落ち着きが得られたことです。不必要な苛立ちや焦りが、努力しなくても自然に抑制できたこと等が、日常から本番での成功へと結びついていくと思われま

す。是非、皆様もお試し下さい。

「10秒呼吸法」の実施方法を図に示しました。
1, 2, 3 で鼻から息を吸い、4 で一旦止め、
5, 6, 7, 8, 9, 10 で口から息を吐き出します。
ポイントとしては、「吸う」より「吐く」ほうに意識を向けましょう。



10秒呼吸法の方法（藤原，1997）

新入会員紹介

個人情報に付き削除

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

山名敏之さん シューベルト グラン・デュオ
～ウィーンの銘器ローゼンベルガー製フォルテピアノによる～
日 時：2012年09月28日（金）19:00 開演
会 場：和歌の浦アート・キューブ（和歌山市）
趣 旨：1820年代ウィーンのオリジナル楽器によるシューベルトの連弾曲のコンサート
主な内容：グラン・デュオ D812 人生の嵐 D947 ロンド D951 軍隊行進曲 D733-3
共 演 者：山名朋子

鶴澤友球（向田由美）さん **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 1**
日 時：2012年11月18日（日）14:00 開演（13:30 開場）
会 場：向田宅（淡路市中田 1673-1）
主な内容：『絵本太功記』十段目〈尼崎の段〉弾き語り
料 金：一般 1,400 円 高校生以下 1,000 円

鶴澤友球（向田由美）さん **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ vol. 2**
日 時：2012年12月23日（日）14:00 開演予定（13:30 開場）
会 場：向田宅（淡路市中田 1673-1） / 全 35 席（全席自由・先着順）
主な内容：『仮名手本忠臣蔵』三段目〈殿中刀傷の段〉弾き語り
賛助出演：加藤晴子（ソプラノ） 五反田尚恵（ピアノ）
料 金：一般 2,000 円
申 込 み：ライブ参加ご希望の方は、電話、FAX、E-mail のいずれかにて、氏名、住所、電話番号、
参加人数を添えてお申込みください。折り返し確認のご連絡を差し上げます。
連 絡 先：Tel&FAX 799-62-5805（向田）tsuruzawa-tomoku@ezweb.ne.jp

河原 千尋さん **河原千尋ピアノリサイタル**

日 時：2013年1月7日(月) 19:00 開演 (18:30 開場)

会 場：東京文化会館小ホール

料 金：3000円

主な内容：J.S. バッハ / 半音階的幻想曲とフーガ、ベートーヴェン / ソナタ 作品 110、
同 / 作品 31 - 2 テンペスト、モーツァルト / ソナタ K310 他

問 合 先：(株) 石場プロダクション 03-5848-9418

加藤 晴子さん **岐阜聖徳学園大学専任教員によるスプリングコンサート**

日 時：2013年3月3日(日) 14:00 開演 (13:30 開場)

会 場：サラマンカホール

趣 旨：大学から地域に音楽を発信する。

主な内容：声楽、ピアノ、クラリネットの演奏(ソロ、アンサンブル)、作品発表

出 演 者：亀井良幸、荒木善子、加藤晴子他

連 絡 先：岐阜聖徳学園大学加藤研究室

電話 058-279-0804 (大学代表) 058-279-6752 (加藤研究室直通)

北山 敦康さん **北山敦康サクソフォンリサイタル**

日 時：2013年3月3日(日) 15:00 開演 (14:30 開場)

会 場：静岡音楽館 AOI

料 金：一般 2,000円 / 高校生以下 1,000円 (前売)

主な内容：A. デザンクロ / プレリユード、カデンツァとフィナーレ、A. グラズノフ / アルトサク
ソフォンと弦楽オーケストラのための協奏曲、他

共 演 者：石川眞佐江 (pf.)、他

{ 吉永 誠吾さん **吉永誠吾 森恭子熊本大学退任記念演奏会**
森 恭子さん

日 時：平成 25 年 3 月 10 日 (日) 14:00 開演 (13:30 開場)

会 場：熊本県立劇場コンサートホール

料 金：無料

主な内容：第 1 部 清正公太鼓、八代少年少女合唱団、ソプラノ・アルト二重唱

第 2 部 チャイコフスキー作曲、ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出」

共 演 者：袴田和泉 (ピアノ)、石垣博志 (チェロ)、國枝春恵 (作曲、ピアノ伴奏)、河添富士子

梅原 圭さん **梅原 圭 ピアノリサイタル**

日 時：2013年5月19日(日)

会 場：王子ホール

主な内容：シューベルト / ピアノソナタ 第 17 番 ニ長調 作品 53/D.850、およびブラームス /
ピアノソナタ 第 2 番 嬰へ短調 作品 2 を中心としたプログラムを予定

会員による新刊

- 吉澤実編 **バロック コンチェルト・スタディ**
～リコーダー、又はフルートのための～
ドレミ楽譜出版社 ISBN 978-4-285-13080-5
価 格：2,100 円（税込み）
出版年月：2011 年 6 月
- 吉澤実監修・編曲 **リコーダーカルテットポピュラー & クラシック名曲集**
～君をのせて～
Yamaha music media ISBN 978-4-636-88290-2 C0073
価 格：2,310 円（税込み）
出版年月：2012 年 1 月
- 吉澤実監修・編曲 **フルート四重奏ポピュラー & クラシック名曲集**
～リベルタンゴ～
Yamaha music media ISBN 978-4-636-88289-6 C0073
価 格：2,625 円（税込み）
2012 年 1 月
- 吉澤実著 **絶対！うまくなる リコーダーのコツ 100**
Yamaha music media ISBN 978-4-636-88291-9 C0073
価 格：1,890 円（税込み）
2012 年 4 月
- * 上記新刊書籍の詳細は HP をご覧ください。 <http://minoruyoshizawa.sakura.ne.jp/j/prof3.html>
- 後藤 丹編曲 **バッハ：《無伴奏チェロ組曲 第 1 番プレリュード》**
全音ピアノピース No.504
全音楽譜出版社 ISBN978-4-11-911504-6
価 格：500 円
出版年月：2012 年 10 月刊
- 後藤 丹編曲 **エルガー：《威風堂々 第 1 番》**
全音ピアノピース No.506
全音楽譜出版社 ISBN978-4-11-911506-0
価 格：500 円
出版年月：2012 年 10 月

設立 10 周年記念新事業 「研究サロン」の現状報告と参加のお誘い

学会 10 周年を記念して立ち上げられた「研究サロン」は学会員が自らの研究の関心に沿うサロンに所属し、研究の交流と発展・深化をはかることを趣旨としています。現在のところバラエティに富んだサロンが開設され、それぞれ独自の活動を行っています。以下にピアノグループからの呼びかけを掲載します。

「楽器と音楽表現—ピアノグループ」から
進捗状況とお願い

発起人：市野啓子、大島晶子、安田 香

【進捗状況】

1. 現在、本サロンへは、後述の「参加お届り票」によって、9名の会員が参加の意思表示をしておられます。
2. 来年度のイーハトーヴ大会にディスカッションの場を設けます！「共同研究」枠（90分）を申し込み、「ピアノ演奏におけるテクニックと音楽表現の連関」のテーマのもと、パネルディスカッションのような形で考えています（前半は2-3本の研究発表、後半は、発表者を含むパネリストとフロアとで対話炸裂）。
研究発表の1本はすでに、野崎博子さんによる「ワイルドとカプースチンの練習曲について」に決定しています。発表者とパネリストが決まり

次第、綿密に連絡を取りあい、2月末の発表申し込みまでには全体のアウトラインを描きます。

【お願い】

1. 上述のパネルディスカッションでの発表者を募集しています！発表時間は質疑応答は別にして一人につき20分ないし30分の予定です。ともかく手探りの出発でもあり、発表内容やスタイルについては発表者のご意志を尊重したいと思います。1月中旬までにお申し込みください。
2. サロンへのご参加お申し込みについて
たくさんのご参加をお待ちいたします。「表現について考えていることを言語化することの困難」を常々思っている、そんな人の集まるサロンです。この困難に挑んだツェルニーやシューマンのような先達には及ばなくとも、ご一緒に模索したいです。添付のお届り票にご記入の上、係までお送り下さい（係にメールくだされば、折り返し、PC上でご記入いただける同じ書式のお届り票を、説明文とともに送らせていただきます）！新しいテーマ、部門の立ち上げもご自由です（ニューズレター前号参照）。

以上、ご質問、ご連絡は安田（イーハトーヴ大会までの連絡係）までお願いいたします。

078-360-1443 kyohome@agate.plala.or.jp

「楽器と音楽表現—ピアノグループ」お届り票

お届り日： 年 月 日

1	お名前	所属（記入は自由）： 専門がピアノ以外の方は、専門をお記し下さい：
2	連絡先	メールアドレス： 電話番号：
3	現時点での参加形態についての希望（○をおつけください）	（ ） 具体的にテーマを定めて参加する。（4以下へお進み下さい） （ ） 取りあえずは、様子を見たい（可能な限り進捗状況を知らせてほしい）。
4	参加希望部門 （○をおつけください / 複数可）	（ ） テーマを提案する：[] （ ） テーマ「ピアノ演奏におけるテクニックと音楽表現の連関」（4-1へお進み下さい。）
4	参加希望部門 -1（○をおつけください / 複数可）	（ ） 部門を提案する：[] （ ） 部門1：「テクニックと音楽表現の関係」について考えを交換する。 （ ） 部門2：歴代の『練習曲集』から対象を選定し、実践的に考察する。（4-2へお進み下さい。） （ ） 部門3：練習曲に関する、また、広く本テーマに関わる先行研究を検証する。 （ ） 取りあえずは様子を見たい（可能な限り進捗状況を教えてほしい）。
4	研究対象 -2	（ ） 研究対象を決めている：[] （ ） これから考えたい。
5	お名前・ご連絡先の現時点での公表について	（ ） ピアノグループ内で公表・共有してよい。 （ ） 同一テーマ内で公表・共有してよい。 （ ） 同一部門内で公表・共有してよい。 （ ） 当分は、連絡係のところに留めてほしい。
	その他ご要望：	[]

まだ、どのサロンにも属されていない会員のみなさま、どうぞご自身の専門分野や関心領域、問題意識のあるところをお選びいただき、是非ご参加下さい。ピアノグループ以外のサロン名と連絡係（敬称略）は以下の通りです。また、新しいサロンの立ち上げも歓迎です。これらの他に関心の分野がありましたら、どうぞ事務局までお知らせください。

「楽器と音楽表現—管弦打グループ」

(長谷川正規 hasegawa@juen.ac.jp)

「発声と音楽表現」

(後藤 丹 goto@juen.ac.jp)

「作曲技法と音楽表現」

(小畑郁男 kobata081208@gmail.com)

「身体と音楽表現」

(土門裕之 domon@takushoku-hc.ac.jp)

「音楽表現と社会」

(杉江淑子 norioka@edu.shiga-u.ac.jp)

「ソルフェージュを考える—これでいいのかソルフェージュ?—」

(中村隆夫 tknkmr@ksn.biglobe.ne.jp)

事務局からのお知らせとお願い

1. 『音楽表現学』Vol.10 刊行 + Vol.11 投稿募集

『音楽表現学』Vol.10 をお届けいたします。
機関誌の充実は学会の成長の証です。

Vol.11 の投稿締め切りは2013年5月31日。
皆様からのますます活発なご投稿をお待ちいたします。

2. 会費納入について

- 年会費未納の方には、今回「未納年会費納入のお願い」を同封しています。学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されております。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。納入の際には必ず**会員名簿登録のご氏名**でお振込みください。

なお、会則により、**3年以上年会費滞納の場合には会員を「除名」となります**ので、ご注意ください。(行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。)

- 年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」を掲載していますので、ご参照下さい。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- 納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の時は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めでの領収書発行はいたしておりません。

* 以上、ご不明の点につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

3. 『会員名簿(2012年度)』発行!

〔会員情報フォーム〕へのご登録ありがとうございました。

今回、『会員名簿』を同封しています。発行のための〔会員情報フォーム〕へのご登録、ありがとうございました。ご登録いただきました内容に変更が生じた場合には、必ず速やかに事務局までお届けくださいますように、お願い申し上げます。

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料

Vol.4～Vol.6は1部3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.9は1部3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

5. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは自由です。皆様のご投稿をお待ちします。

- 研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内
- コンサート案内：学会後援(申請については後述)のものを掲載します。
- 新刊案内・CD/DVDリリース案内：会員による刊行物等の紹介を行います。上梓されましたら購入方法なども含めてお知らせください。
- その他：所属されている他学会の情報などもお

寄せください。

- ・ 投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

6. 東日本大震災復興支援 「書籍等青空市場」への出店随時募集

ニューズレター上に開設しております「書籍等青空市場」への出店を随時募集しています。ニューズレター次号発行は2013年3月末日です。自宅に眠る音楽関係書籍、CD等を会員の間で回転させ、売上金を復興支援として寄付しませんか？

7. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる

際には、その旨をお記し下さい。

- ・ 大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・ コンサート・出版物等の後援または協賛とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベント、出版物の刊行などの活動を学会は「後援」または「協賛」します（申請方式が変わりました。次項をご覧ください）。

8. 各種書式

(1) 「入会申込書」書式

以下の書式にて、メール本文貼り付け、またはワード文書添付、あるいは郵送で事務局まで送付してください（「入会申込書」書式はHPからもダウンロードできます）。

各種書式

1. 「入会申込書」

入 会 申 込 書	[備考]
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日 氏 名 (ふりがな): 専門分野: 所 属: 自宅住所:〒 連絡先:(上記と異なる場合) 〒 連絡先 Tel.: 連絡先 Fax.: e-mail: 推薦者名(学会員・1名) 音楽表現学会に期待されること。ご意見等:	・ 「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・ 入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・ 学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・ お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

2. 「後援願」〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕にて申請ください。

「後援願」は、本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請していただくことになりました。ご協力よろしく願いいたします。

3. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

